

# 會 務

第 22 卷 第 11 號 昭和 11 年 11 月

## 役 員 會

### 第 10 回理事會 (昭 11. 9. 21)

出席者： 井上會長、辰馬副會長、宮本、萩原、藤井、沼田、宮長各理事

#### 報 告

1. 日本ポルトランドセメント業技術會議に出席の講演者は福田武雄君に依頼せり。
2. 9 月 28 日 (月曜日) シヤム 國有鉄道運轉課長 ルアン・ヴィデユラ・ヴィデユコール君外 3 名、滿洲國 土木技師 趙成楷君、劉德成君外 3 名を招待し日本技術協會と聯合にて講演會を開催することとせり。

#### 議 事

1. 第 25 回秋季視察旅行を別紙 (省略) の通り開催することとす。
2. 日本工學會の客員推薦に關する照會に對しては異議なき旨回答することとし常議員會に諮ることとす。
3. 日本工學會の定款改正に關する照會に對しては總務部長より提案の意見を添へ回答することとし常議員會に諮ることとす。
4. 振興委員會第 2 部會提案に係る次の 2 項を常議員會に諮ることとす。
  - (イ) 土木工事取締規則を制定し全國を統一して之が取締を爲し得る標當局に建議すること (理由別紙省略)。
  - (ロ) 杭の支持力に對する標準公式制定に關し委員會を設置して調査研究を爲すこと (理由別紙省略)。
5. 爆彈投下に依る土木工作物の被害及防護に就き 10 月下旬専門家の講演或は座談會を開催することとし講演依頼に關しては總務部長に一任せり。
6. 各種委員會委員を次の通り追加依嘱することとす。

#### 行政機構改正調査委員會委員に

高橋嘉一郎君、榎木寛之君、衣斐清香君、村上保則君 (幹事)、加藤伴平君 (幹事)

#### 請負工事標準契約書調査委員會委員に

河西定雄君、稻葉通彦君、堀尾墨熊君  
土木學會コンクリート調査委員會委員に

小宅習吉君

鋼橋示方書調査委員會委員に

友永和夫君 (幹事)

東亞連絡委員會委員に

趙福靈君

7. 道路改良會より申出の同會編纂道路技術者必携中に本會調査に係る用語 (道路) 登載の件は承認することとす

#### 8. 入退會の件

江角祥藏君外 2 名を會員に、卯月重男君外 8 名を准員に、倉田宗章君外 2 名を學生員に入會承認し、准員淺野忠君外 38 名を會員に、學生員下田寔君外 2 名を准員に転格を承認せり。

### 第 11 回理事會 (昭 11. 10. 5)

出席者： 井上會長、宮本、萩原、藤井、沼田、宮長各理事

#### 報 告

1. 南朝鮮水害調査に關しては實情を調査せるに死傷者は多數なりしも土木工作物の被害は本會に於て調査する程度に達せず。依て特に委員會を設置して調査することは中止することとした旨、宮本總務部長より報告。
2. 會員丹羽鋤彦君より工學會誌第 125 卷より第 450 卷まで他の寄贈ありたり。
3. 日本工學會工業博物館建設調査委員會の議事經過に就て宮本總務部長より報告。
4. 土木學會關西支部第 9 回土木通俗講演會に出席せられたる井上會長よりその狀況報告。

#### 議 事

1. 年次學術講演會開催に關し下記原案につき宮本總務部長より説明あり、可決。之を常議員會に諮ることとし、且つ昭和 12 年度の學術講演會は京都に於て開催することに申合せたり。

東京其他大学又は専門學校所在地を選び毎年 4 月土木學術講演會を開く但し日本工學會大會開催の年は本講演會を開催せざるものとす。

講演會は凡て日本工學會大會土木部會に準じ會員より論文の提出及其の講演を求むるものとす。

講演會の日数は 2 日間とし何れも午前中を講演、午後を視察見學とす。

毎年の開催地及開催期日は理事會に於て之を定め毎年1月會議上に豫告するものとす。

開催地の學校當局及在任會員に講演委員會の設置を求め講演會開催に關する事務を依頼す。

講演會開催に關し直接必要とする經費は本會に於て之を負擔す。

講演會には會長之に出席す、會長事故あるときは副會長の内1名之に出席す。

2. 土木工事に關する文化映畫製作委員會委員長及委員を次の通り依頼することとせり。

委員長 金森誠之君

委員 片平信貴君、澤 勝藏君、大石義郎君、  
青木楠男君

鐵道關係よりも若干名の委員を依頼することとしその選定は沼田調査部長に一任せり。

3. 土木工事取締に關する建議に就ては下記原案につき宮本總務部長より説明あり之を可決し、關係各省大臣宛提出することとせり。

#### 建 議

政府は速に土木工事に關する取締法規を完備し全國を通じて一貫せる方針の下に之が取締を勵行せられんことを望む。

#### 理 由

國運の進展に伴ひ地方開發、産業振興、災害防除等を目的とする各種土木施設は漸増の趨勢に在り土木工事益々殷盛ならむとするに當り各府縣に於ける之が取締の現況を見るに河川法、運河法、道路法、公有水面埋立法、各關係法規並大正11年5月內務省訓令第6號によるもの、外左記事項に付取締規則の有するもの22府縣、河川工事取締規則の有するもの8府縣にして他は何等の取締規則を有せず、各種土木施設に關する計畫及施工の適正を缺き之が利用上遺憾の點少からざるは勿論、災害を誘發して國土の保全、人命財産の保安を脅威するもの極めて多し、政府は此の現況に深く鑑みる所あり速に土木工事取締に關する法規を完備し全國を通じて一貫せる方針の下に之が取締を勵行するを以て喫緊の要務と認む。

#### 記

河川法の適用又は準用なき河川に關する工事及同上河川に於ける其他の土木工事

道路法によらざる道路に關する工事

運河法、河川法によらざる湖沼、運河、用悪水路、溜池等に關する工事

公有水面埋立法、大正11年5月內務省訓令第6號によらざる港湾設備に關する工事

其他一般土木工事

右本會常議員會の議決を経て及建議候也

4. 杭の支持力公式調査委員會委員長及委員を次の通り依頼することとせり。

委員長 谷口三郎君

委員 伊集院久君、尾崎義一君、金森誠之君、笹森巽君、鈴木清一君、土本 基君、富樫凱一君、徳善義光君、松田亮治君、松村孫治君、山口 昇君、山田正平君

幹事 石田武雄君、藤森謙一君

5. 振興委員會第3部會委員を次の通り追加依頼することとせり。

小宅習吉君、今井四郎君、飯島十郎君、土生 保君、柴田長一郎君

6. 土木學會コンクリート調査委員會委員を次の通り追加依頼することとせり。

松村孫治君、金子 柁君

7. 土木學會の金融を円滑にする爲三井銀行丸ノ内支店と當座預金(10000円限度)の借越契約を締結することとせり。

#### 第5 同常議員會 (昭11.9.21)

出席者： 非上會長、辰馬副會長、宮本、萩原、藤井、沼田、宮長、内田、加藤、蒲、菊池、吉田各常議員、青山前會長

#### 報 告

1. 天皇陛下へ明治以前日本土木史を獻上し御採納あらせられたり。

2. 滿洲國皇帝陛下へ明治以前日本土木史を獻上し御採納あらせられたり。

3. 日本學術振興會總裁 秩父宮殿下へ明治以前日本土木史獻上の手續をなせり。

4. 平山復二郎君の後任理事に後藤宇太郎君を選任せり。

5. 前東亞部長宮本武之輔君を總務部長に後藤宇太郎君を東亞部長に依頼せり。

6. 國際大堰堤會議に出席の次の諸君へ本會代表を兼ね出席方を依頼せり。

小野基樹君、佐藤周一郎君、石井頼一郎君

7. 國際測地學會議に出席の野口正義君へ本會代表を兼ね出席方を依頼せり。

8. 日本ポルトランドセメント業技術會議に出席の

講演者を福田武雄君に依頼せり。

9. 9月開催の講演會を日本技術協會と聯合にてシヤム國有鐵道運轉課長ルアン・ヴィデユラ・ヴィデユール君外3名滿洲國土木技師趙成楛、劉德成君外3名を招待し9月28日(月曜日)開催することとせり。

10. 第25回秋季視察旅行を別紙(省略)の通り開催することとせり。

11. 東亞調査委員會を設置し、委員長及委員を次の通り依頼せり。

委員長 中川吉造君

委員 田中 豊君、山口 昇君、金森誠之君、樫木寛之君、鈴木雅次君、谷口三郎君、三浦七郎君、淺間逸雄君、井上隆根君、古川淳三君、山田隆二君、秋山徳三郎君、内田莊一君、山田忠雄君、高橋三郎君、森田三郎君、内海清温君、柳澤 健君、直木倫太郎君、杉廣三郎君、伊澤道雄君、近藤謙三郎君、何 壽 祥君、佐藤廉次郎君、山領貞二君、津田正夫君、永井了吉君、池田鏡男君、池本泰兒君、東 森藏君

12. 土木學會財政調査委員會を設置し、委員長及委員を次の通り依頼せり。

委員長 前川貫一君

委員 杉木好太郎君、新井榮吉君、三浦 貢君、竹股一郎君、大竹邦平君、久保彌太郎君、谷井陽之助君、衣斐清香君、金子源一郎君、藤田弘直君、高橋三郎君、阿曾沼均君、田中 豊君、佐藤利恭君

13. 8月17日及9月21日までの入退會別紙(省略)の通り承認せり。

14. 關西地方風水害調査報告書を別紙(省略)の通り寄贈することとせり。

#### 議 事

1. 用語調査常置委員會を設置することとし委員長並に委員の依頼は理事會に一任とす。

2. 土木工事に関する文化映畫作成に關し調査研究する爲委員會を設置することとし委員長並に委員の依頼は理事會に一任とす。

3. 日本工學會の客員推薦に關する照會の回答は理事會に一任とす。

4. 日本工學會の定款改正に關する照會の回答は總務部長に一任とす。

5. 土木工事取締規則制定方建議に關しては理事會

に一任せり。

6. 杭の支持力に對する標準公式制定に關する調査委員會を設置することとし委員長並に委員の依頼は理事會に一任とす。

以上の議事終了後井上會長より次の報告ありたり。土木學會關西支部に於て来る9月30日講演會を開催するに當り同支部長より會長の來會を希望し來りたるを以て之に出席することとせるを以て右御了承ありたし。

### 總 務 部 記 事

第3回土木技術者相互規約調査委員會 (昭11. 9. 14)

出席者： 青山委員長、鈴木、山口、後藤、竹股、川口、藏重、齋藤各委員 宮本總務部長 小野寺庶務主任

前回の申合により作成せる土木技術者相互規約案を議題として意見の交換を行ひ委員長其他より次の希望あり。

(1) 規約の精神を更に我國情に則したるものに修正する、(2) 餘りに細則に涉らず綱領のみを掲げる

尙次回には原案に對する各委員の意見を持寄り協議することに申合を爲す。

第5回振興委員會第2部會 (昭11. 9. 17)

出席者： 古川委員長、青木、樫木、田中、三浦、山口、鈴木、金森、荻野、木幡、稻葉各委員、宮本總務部長、柴原書記長、小野寺庶務主任

1. 土木技術者の資格を審査するに當り法制局に於ては舊來の内規を適用せられつゝあり、依て内規改正の要あるを以てその意見を提出するため本委員會に於て一応調査を進むること。

2. 土木工事取締規則を制定し全國を統一して之を取締を爲し得る様當局に建議することとし、下記提議の通り會長に提案すること。

3. 杭の支持力に對する標準公式を制定するため調査委員會の設置を下記提議の通り會長に提案する事。

#### 提 議

昭和11年9月17日

振興委員會第2部會委員長 古川淳三

會長 井上秀二殿

振興委員會第2部會は全會一致を以て左記事項を提案す。

(1) 土木工事取締規則を速かに制定し全國を統一して之が取締を爲し得る様當局に建議するの件

理由：各府縣に於ける土木工事取締の現況を見るに左記事項に付取締規則の存するもの 22 府縣、河川工事取締規則の存するものは 8 府縣にして他は何等の取締規則無し、土木工事の施行益々盛ならんとする今日統一せる取締規則なきは遺憾至極なるを以て内務大臣に於て速に適當なる法規を制定し、之が取締方法を講ぜられんことを望む。

記：道路法に依らざる道路の取締、河川法施行若くは準用河川以外の河川取締、右河川に附隨して起工せらるゝ土木工事の取締、法の支配を受けざる湖沼、運河、用悪水路、溜池の工事、港灣、船渠、埠頭、棧橋工事等の取締其他一般土木に關する取締。

(2) 杭の支持力に對する標準公式制定に關する調査委員會を設置されたし。

理由：本邦に於て杭の支持力を推定すべき公式なくサンダー・ウエリントン等外國に於て定めたるものを區々に使用し居れり。本邦として土木工事の重要な杭打ち工事に對し支持力を推定すべき公式のなきは頗る遺憾とする所なれば、土木學會に於て此の調査をなし、本邦の土質其他本邦の事情に適合する公式を制定する必要があるものとす。

#### 第 5 回振興委員會第 3 部會 (昭 11. 9. 25)

出席者：太田尾委員長、野坂、奥田、瀬戸、南保服部各委員、宮本總務部長、小野寺庶務主任

1. 委員の補充を爲すこと。
2. 本委員會は以後事業の計畫遂行に就き協議すること。
3. 土木學會誌に講座欄を設くる事を會長に提案すること。1 回の分量は數頁以内に止め 4 回程度にて終了する専門学校程度の斬新なる知識の紹介を目的とし質疑を許すこと。

次回協議打合せ事項：(1) 講座欄に關する事(毎回掲載すべき部門の數、題、著述者等に關する打合せ)。(2) パンフレットに關する事項、(3) ポケットブック作成に關する件。

講演會 (昭 11. 9. 28. 於鉄道協會)

講演者：シヤム國有鉄道運輸課長 ルアン・ヴィデュラ・ヴィデュコール君、滿洲國土木技師 趙成楷君

來聽者：80 名

講演終了後 ルアン・ヴィデュラ・ヴィデュコール君外 1

名趙成楷君外 1 名を招待し有志晚餐會を開催せり。出席者 30 名。

#### 第 25 回秋季視察旅行 (昭 11. 10. 10~11)

行程：東山温泉 1 泊、東京電燈株式會社小野川發電所工事視察、裏磐梯山五色沼、檜原湖探勝

参加者：會員 70 名。

(會報記事参照)

### 編輯部記事

#### 第 10 回會誌編輯委員會 (昭 11. 10. 6)

出席者：關委員長、伊藤、板倉、稻葉、大久保、楳部、島野、野坂、廣瀬各委員、藤井編輯部長、五十嵐編輯主任、紀成囑託

1. 會誌に新技術問題に關する講座新設に就き協議し、大体新設する事に決定し、次回迄に其の具体案を作成協議する事とせり。
2. 論文制限頁數に就き協議し、當分現在の儘変更せざる事とせり。
3. 本會誌に使用するローマ字は今後文部省制定のローマ字を採用する事とせり。但し人名は任意とす。
4. 會務欄中の圖書雜誌の項は新刊紹介欄に挿入する事とせり。
5. 本年度優秀論文選定方針に就き協議せり。
6. 第 22 卷第 10 號追加及第 22 卷第 11 號追加の寫眞及原稿を次の如く決定せり。

第 10 號：彙報(水害防止協議會の顛末)。會員の頁 2 編、時報 7 編

第 11 號：工事及災害寫眞(三新線工事、南朝鮮鐵道の水害)、討議 常願寺川改修計畫に就て(會、平井寬)、同上(著、會、富永正義)、抄録 7 編。

7. 第 22 卷第 12 號登載原稿を次の通り決定せり。

彙報：昭和 9, 10 年全國各地方異常潮位及昭和 10 年利根川、木曾川大出水調査資料に就て(會、伊藤 剛)

抄録：新しい彈性係數(最上)、トラスの部材応力計算の新しい一方法(住友)、自動車専用道路の路面に就て(住友)。

特許紹介

8. 會誌の著者名に工学士の名稱を削除する事とし脚註に挿入する事とせり。

9. 第 22 卷第 10 號所載工事及災害寫眞、時報、抄録に對する謝禮を決定せり。

### 調査部記事

#### 第 3 回鋼橋示方書調査委員會 (昭 11. 9. 18)

出席者： 田中委員長、尾崎、富樫、西岡、三浦各委員、沼田調査部長、友永 幹事 五十嵐編輯囑託。

1. 青木委員調査にかゝる橋梁死荷重に就き審議し次の如く第一次決定値を定めたり、

- (1) 煉瓦の重量：普通煉瓦 2.0 t/m<sup>2</sup>、クリンカー 2.2 t/m<sup>2</sup>、鋪裝煉瓦 2.4 t/m<sup>2</sup>
- (2) モルタルの重量：2.2 t/m<sup>2</sup>
- (3) 木材の重量：0.8 t/m<sup>2</sup>
- (4) アスファルト：pressed asphalt 2.2 t/m<sup>2</sup>、防水用 1.0 t/m<sup>2</sup>

2. 富樫委員調査にかゝる東京市土木試験所調査の各種鋪裝單位重量調を參考として示方書に挿入する事とす。

3. 内務鉄道兩省の鋼橋示方書改訂案を始めより順次印刷し、次回より逐一審議を進める事とす。

#### 第 4 回鋼橋示方書調査委員會 (昭 11. 10. 2)

出席者： 田中委員長、尾崎代理奥田、小澤、富樫成瀬、西岡各委員、友永幹事、五十嵐編輯囑託

1. 友永幹事よりモルタルの重量、木材の比重、A. R. E. A. の impact formula、及日、華、英、米、獨、佛の風圧強度規定に關する調査報告ありたり (別紙省略)。

2. 東京市土木試験所調査にかゝる各種鋪裝重量調と前回本委員會にて決定せる鋪裝死荷重との關係を檢算せる結果は 1~2 kg/m<sup>2</sup> 程度の差にて大差なきを以て前回決定値は實用的のものとして使用し得る事と認めたり。

3. モルタルの重量は前回 2.2 t/m<sup>2</sup> とせるも 2.0 t/m<sup>2</sup> に変更せり。

4. 木材の重量は前回通り 0.8 t/m<sup>2</sup> とす。

5. 鋼鉄道橋設計示方書 (鉄道省改正案) に就き審議を進め次の通り第一次案を定む。

#### 第 1 章 總 則

適用 第 1 條 本示方書はスパン 120 m 以下の St 39 を使用する 銑結鋼鐵道橋の設計に使用するものとす。

材 料 第 2 條 材料は特に明文あるものを除くの外總て日本標準規格に依るものとす。

#### 第 2 章 荷 重

死荷重 第 3 條 死荷重は算出に於て使用材料の重量は次の如く定む (前回迄の死荷重決定値挿入)。

活荷重 第 4 條 活荷重は 1 軌道に對し次の K 荷重 S 荷重孰れか 部材に大なる応力を生ずべきものを用ふべし、但し特に定められたる場合は此の限にあらざ (図面省略)。

設計荷重	K - 荷 重				S-荷重
	P <sub>1</sub> (t)	P <sub>2</sub> (t)	P <sub>3</sub> (t)	w(t/m)	P (t)
KS-18	9	18	13	6	22.0
KS-15	7.5	15	10	5	18.3
KS-12	6	12	8	4	14.6
KS-10	5	10	6.5	3.3	12.2

6. 委員長より "impact と allowable stress の問題は重要な問題なるを以て大体の成案を得ば、之を各大学のこの方面の權威者に送り意見を求め、場合に依つては集つて審議を爲しては如何" と語り委員賛成せり。

### 東 亞 部 記 事

#### 第 3 回東亞連絡委員會 (昭 11. 9. 13)

出席者： 久保田委員長、内川、山崎、岡田、各委員、後藤東亞部長。

1. 前回より懸案の滿鉄に東亞部事業後援方を依頼する文案を可及的速かに立案すること。

2. 滿鉄東京支社員中より委員選定方を伊澤支社長に依頼状を出すこと。

3. 留日学生名簿は次回までに完全なものを作成すること。

4. 前回より問題の交通大學設立に關する具体案は山中委員缺席のため次回に協議すること。

5. 調査委員會と連絡委員會とは關係深きを以て可成同日に委員會を開催すること。

招待會 (昭 11. 9. 16. 於丸之内會館)

來朝中の中華民國平漢鐵路局橋梁検査官趙福靈君を招待し晚餐會を催せり。

出席者： 井上會長、萩原、藤井、沼田、後藤各理事、内川、山田、吉田各常議員、中川、那波、名井、眞田各前會長、山崎、岡田、山中各東亞連絡委員、山田東亞調査委員

柴原書記長，小野寺庶務主任。

土木學會關西支部記事

第9回土木通俗講演會並映畫會 (昭 11. 9. 30 於朝日會館)

土木學會々長井上秀二君より挨拶ありたる後次の講演及映畫ありたり。

講演：(1)大阪驛前の新装(大阪市土木部道路課長宮内義則君)，(2)關門と源兵衛渡の水底隧道(京都帝國大学教授瀧山 與君)

映畫：(1)北海道スキー場實寫，(2)下淀川鉄橋桁架實寫，(3)水圧の下に働く男の魂。

來會者約 1500 名。

日本工學會記事

○昭和 11 年 9 月 24 日日本工業俱樂部に於て日本工

學會評議員會を開催し一般會務の報告あり，次で工學會館建設に關する件に就き懇談ありたり。

○昭和 11 年 10 月 1 日日本工業俱樂部に於て工業博物館調査委員會第 2 回會議を開催し，次の申合せを爲したり。

本委員會は工業博物館建設につき調査審議の結果その實現方に付關係方面に進言し，且つ輿論を喚起する方針の下に進行すること。

その他の記事

○昭和 11 年 9 月 30 日土木學會誌第 23 卷第 10 號を發行し成規の手續を了し 10 月 1 日全會員に配布せり。

入會及転格會員

會 員 (入 會)

江 角 祥 藏君 佐賀縣營千拓事務所

大 石 憲 次君 鉄道省北海道建設事務所

趙 福 靈君 中華民國平漢鐵路局工務處

准 員 (入 會)

卯 月 重 男君 鉄道省下關改良事務所

武 田 平 七君 京都市水道局上水課

町 昌 平君 京都有役所下水課

鈴 木 千 里君 岩手縣廳土木課

長 谷 川 寬 一君 大阪市水道部技術課

三 谷 春 五君 兵庫縣三田土木出張所

高 橋 正 一君 大日本電力株式會社

長 谷 川 保君 東京鉄道局工務部保線課

今 川 衛君 青森縣田名部土木出張所

学 生 員 (入 會)

倉 田 宗 章君 北海道帝大

陳 國 禎君 昭和高等鉄道學校

西 島 國 造君 北海道帝大

會 員 (転 格)

淺 野 忠 君 小野田セメント會社

鹽 澤 弘 君 都市計畫東京地方委員會

西 川 久 藏君 撫順炭礦揚伯保土探炭所

石 田 武 雄君 名古屋鉄道局工務部

下 山 秀 松君 鉄道省熱海建設事務所

早 川 透 君 臺灣總督府内務局土木課

大 河 津 壽 之 助君 靜岡縣藤田用水幹線改良事務所

新 堂 宏 君 滿洲國國道局新京建設處

東 芳 男 君 宮崎縣廳土木課

加 藤 清 治君 關西急行電鐵會社

須 藤 壽 美君 秋田縣廳土木事務所

藤 田 峻 五君 鉄道省米子建設事務所

大 高 廣 義君 長野縣廳土木部

鈴 木 志 誠君 滿洲國國道局第二技術處治水科

藤 田 武 男君 合資會社鷺井組

加 藤 清 治郎君 大倉土木株式會社

瀨 野 尾 喜 八君 滿鉄牡丹江建設事務所

藤 村 喜 好君 大阪府宮林土木出張所

金 塚 久 則君 吉林鐵路局工務所

關 昌 作君 北海道函館築港事務所

牧 野 潤 二君 東洋拓殖會社朝鮮支店

河 野 要 君 滿鉄牡丹江建設事務所

千 陽 勝 郎君 鉄道省岐阜建設事務所

松 澤 作 馬君 徳島縣廳土木課

木 島 榮 君 朝鮮黃海道廳土木課

近 多 光 義君 北海道根室築港事務所

三 輪 好 年君 朝鮮忠清北道廳土木課

喜 多 權 次郎君 臺灣電力株式會社

土 谷 實 君 北海道羽路築港事務所

向 澤 文 男君 臺灣總督府交通局鉄道部

元 泰 常君 朝鮮總督府土木課

辻 一 二 三君 滿鉄錦州建設事務所

矢 崎 道 美君 廣島電氣株式會社

佐 々 木 淳 八君 吉林鐵路局工務處

中 村 卯 兵 衛君 臺灣總督府交通局道路港務課

山 崎 實 君 株式會社間組

佐 藤 豪 君 鉄道省信濃川電氣事務所

長 沼 秀 一君 關東州廳土木課

渡 邊 義 直君 靜岡縣袋井土木出張所

## 准 員 (転 格)

下 田 寛君 内務省東京土木出張所室  
田工場 | 内 藤 幸 雄君 東濱電力株式会社 | 文 屋 清君 東京市水道局淀橋浄水所

## 土木学会々員數

(昭和 11. 9. 21 現在)

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	贊 助 員	合 計
2818	2693	519	3	20	6056

會 員 山内嘉之助君 昭和 11 年 9 月 20 日逝去せられたり、本會は弔詞を靈前に呈し  
恭しく哀悼の意を表したり。

准 員 高島健二君、佐 藤 嵩君、高 橋 章君 の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の  
意を表す。

學 生 員 酒井孝司君、平田信和君、鍋島滿雄君 の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の  
意を表す。

## 會 報

第 23 卷 第 11 號 昭和 11 年 11 月

### 第 25 回秋季視察旅行記事

時は紅葉の好季!!

秋のエキスカーション!!

昭和 11 年 10 月 10 日及 11 日の兩日にかけて本會恒例の第 25 回秋季視察旅行が會津猪苗代湖を中心とした工事視察と景色の探勝を以て舉行せられた。今回の催しは従來とは趣を変へて現地に集合現地にて解散、會費は僅に 3 円 50 銭と云ふ安易な旅行を目的とした。その爲か學會定連の外に壯青年技術者が多數参加し参加者數 70 數名を算へた。中に東京市役所の小話會の猛者十數名が之に加はり老壯青年技術者が年齢の隔てを忘れ學會と云ふ親睦の垣塙の中に融けあつた。

一行は 10 日夕刻思ひ思ひの列車にて會津若松驛に到着し、直ちに湯川の流れと濃き緑の中に紅葉し始めた山々の景色を賞でながら東北の温泉郷東山温泉に向つた。温泉は鬱蒼たる峻岳を背に湯川の清流に沿つた絶好の景勝の地を占めてゐる。一行は向瀧旅館と東山ホテルに分宿し、コバルト色透明の温泉に浴した。附近には雨降り瀧、傘松等の名勝あり、浴後の散策に温泉氣分を満喫した。

#### 大懇親會開催

午後 8 時から向瀧旅館の廣間に於て大懇親會が開催された。東京電燈會社の御好意に依る美酒美肴、それと會津美人のサービスに場内は早くも和氣に満ち満ちた。纏て河合福島縣土木課長が一行を迎へる挨拶を爲し、東電大島滿一君よりも同様この地に構威ある學會の諸君を迎へた喜びを述べられ、目下工事中の小野川発電所工事の梗概に就き説明された。之に對し井上會長一行を代表して福島縣當局並に東電が本會の旅行に對し多大の御援助を興へられた事感謝し、更に本地方は我が土木工事界にとつては誠に由緒の深い地なる事を述べられ、猪苗代開發の恩人たる關人ファンドレン君の功績をたゞへられた。

これより酒宴に入り、纏て盃の進むにつれ陽氣な歌畜も加はり、最後に會津磐梯の名物たる會津俚謡が行まれた。

“會津磐梯は寶の山よ、笹に黄金がエエマタなり下る。”の歌詞に合わせて手つき、足どりよろしく會津美人

と東電の諸君の踊がいつもあざやかに展開された。會長も之に加はり、場内の人氣を集めた。10時半宴を閉ぢたが、元氣のある連中は更に席を変へての転戦に東山温泉の情緒は盡くる所を知らなかつた。

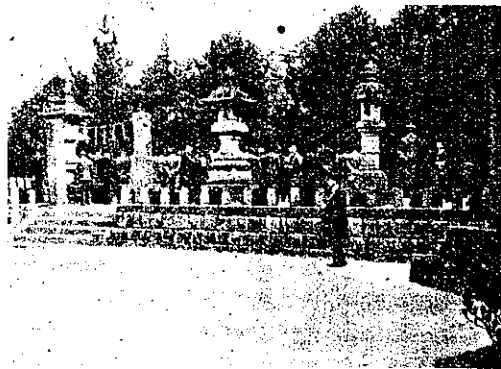
#### 第 2 日先づ白虎隊の遺跡を尋ぬ。

滾々たる湯川の清流に夢を結んだ東山温泉の一夜は名残りなく晴れて、此の地方に珍しい溫暖な絶好のハイキング日和を約束する様な朝、向瀧、東山の兩ホテルに分宿した會員は元氣よく第 2 日の日程に入つた。

午前 9 時、自動車を連ねて東山温泉を出發、コースを飯盛山に向け會津探勝のスタートを切る。車中より松平家 23 萬石の居城にして蒲生氏卿の築城に係り、天下名城の一つと稱せられた鶴ヶ城跡を眺め、日本唯一の登壇神社等の説明を聞きつゝ、9 時 30 分山麓着、此處にて自動車を下り飯盛山登山に掛る。正面石段を昇り盡せば嚴島祠に出る。この祠は白虎隊員が會津の會戦に敗れ疲れて天明瀧不動山に達し、戸ノ口堰より隧道を潜つて飯盛山に出た所で、更に山腹なる螻蛄堂は構造の妙なるを以つて聞え、其の堂は 3 層 6 段、高さ 51 尺最下部の直径 21 尺、内部の廊下は旋回式昇降にして無階段而も上下異なる通路を以つて上下し得る誠に巧な構造と云ふべく、會員一同何れも堂内を廻つて其の巧妙なるを嘆じた。

山頂に達すれば白虎隊 19 少士の墓あり、其の靈今

#### 白虎隊墓前の一行



も尙飯盛山に籠りて節々たる日本武士の面影を躍如たらしめ、且つ先年伊國ムソリニ首相より贈られた記念碑、鶴ヶ城寄りの庭隅に聳え武士道の精神を世界に誇りたるの感を深くする。



世に所謂白虎隊と稱するは松平容保の兵制の下に年齒 16 歳より 17 歳の少年を以つて組織する白虎隊、朱雀隊、青龍隊等の 26 隊の中の一隊であつて、更に白虎隊は足輕、宍合、士中の 3 班より成り、何れも一番中隊、二番中隊の 2 隊から成り、飯盛山の露と消えた白虎隊の隊員は之の士中に屬する二番中隊である。當時、鳥羽、伏見の戦以來關東勢退いて會津、越後各所に転戦 29 ケ戦に及び、中にも今の東京電燈猪苗代第一發電所の取入口の設けられてある戸ノ口原の戦に最も壯烈を極め、雲霞の如き大軍に對し會軍僅に 300 餘人、敢死隊を中央とし、遊軍隊を左翼として戸ノ口原に胸壁を築き白虎の一隊其の右に連つて西軍を防ぐも既に彈盡き硝藥盡りて用を爲さず、劊を包むの暇もなく鮮血淋漓、銃を肩にし、刀を杖として飯盛山に登り、天守閣の火災を眺めて最早天運盡きたりと爲し、鶴ヶ城を拜して十有九人屠腹して果てたもので、時に明治戊辰 8 月 23 日であつた。

#### 十六橋視察、ファン・ドールン氏の銅像に敬意を表す

感慨事の外深く近く靈を慰め、遠く頭と廻らし、低徊去る能はざりしが、豫定の時刻を過ぐる事 35 分、10 時 20 分飯盛山を發し、十六橋に向ふ。此の附近水利に恵まれ大小幾多の發電所到る所の山腹に隠見し、黙々として自然力を人類文化の資源に転じてあるを見る。

10 時 40 分、愈猪苗代湖畔の十六橋着、長工師蘭人ファン・ドールン氏の銅像に敬意を表す。氏は明治初年時の政府の招聘に依りて來朝、當時水利に乏しき會津盆地に猪苗代湖の水を注がなが爲、安積疏水を完成、士族の失業せるものを此の地に集めて農作に當らしめし功あつたもので、其の計畫の適切なると、流量、水位觀測の正確なるは今日の技術者の等しく感嘆する所である。尙安積疏水は従つて猪苗代湖の制水權を有し灌漑用に對しては其の水頭約 3 尺である。

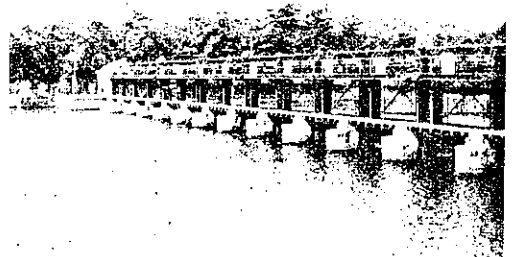
十六橋は前記ファン・ドールン氏の設計に或るもので、明治 16 年官湖の水と安積に疏する待嚴を穿ち、崖を截り水底より石を積み 16 の円洞を附けた石造の眼鏡橋であつたもので、猪苗代水力電氣會社の設置と共に鉄橋に改造し、長さ 260 尺、幅 3 間、橋梁は徑間 16 尺のもの 18 徑間、路面はコンクリート鋪裝にして、橋脚より下流 9 間餘にストーン-式水門を設け南戸、口堰、北布藤堰とし大正 2 年 9 月竣功を見たものである。

東京電燈會社は十六橋下約 800 米の地點に日橋川に

ファン・ドールン氏の銅像



十六橋水門

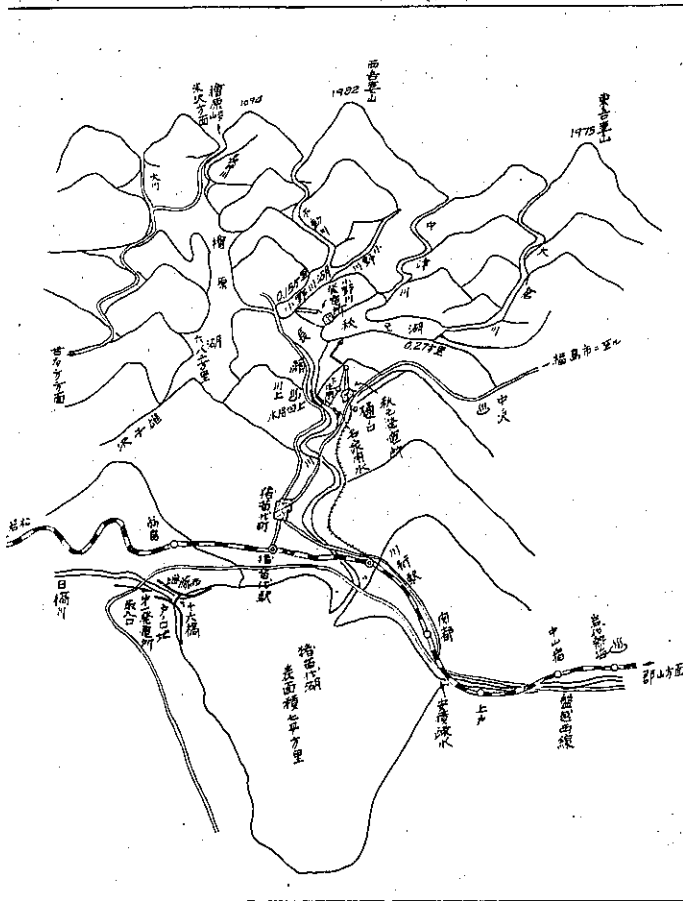


沿うて第 1、第 2、第 3、第 4 の 4 ケ所の發電所を有し、各々出力 37 500kw、24 000kw、14 000kw、21 700kw を發生せしめてゐる。之等は何れも日橋川の水位と順次に低下利用したもので有效落差は第 1 發電所の 107 m を始として第 2 の 69.7 m、第 4 の 63.3 m、第 3 の 40.6 m を有する。之の外附近に猪苗代湖の水位を利用するものに東部電力、新潟電力、東信電氣、會津電力等がある。

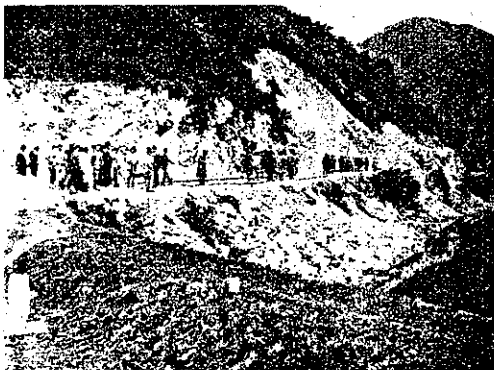
#### 猪苗湖畔をドライブ

午前 11 時十六橋を發し途中湖畔翁島なる高松宮御別

視 察 場 所 一 覽 図



小野川発電所工事場に向ふ



に拜し、右に「天鏡」の別名ある猪苗代湖を見る。湖は東西3里11町、南北2里5町、周囲16里19町にし、耶麻、安積、北會津の3郡に跨り湖面鏡の如く、北

に會津名山「磐梯」の雄姿を浮べ、遙に吾妻山々を遠望し、長濱、小平湯、紅葉ヶ濱等を擁して風景絶佳と稱すべく、海拔1696尺、貯水量35億尺<sup>3</sup>餘と稱せられる。

湖をはずれて田雨の中に世界的國手野口英世博士の生家の藁葺きにして、いとも質素なるを見、次いで猪苗代町を過ぎ北走約1時間半、正午を廻る頃秋元湖畔に到着す。

小野川発電所工事視察

秋元湖畔の秋元砕石場より一同徒歩にてトロリー軌道上を歩み小野川発電工事場に向ふ。

小野川湖は北磐梯3湖、即ち明治21年磐梯山の爆發によつて長瀬川下流一体の谷間を堰止めて出來た檜原、秋元兩湖の中間に位し、面積1.47km<sup>2</sup>、海拔794m<sup>2</sup>である。

堰堤築設後の北磐梯3湖間及び最南猪苗代湖の湖面までの水位差は図の如くであるが、之の間の使用水量は(イ)檜原湖、小野川湖間234.5個、(ロ)小野川湖、秋元湖間299.1個、(ハ)秋元湖、酸川落合間

439.5個で有效落差と水量とより各湖間の電量は(イ)6000000KWH、(ロ)38000000KWH、(ハ)151000000KWHとなる、之等の中先づ最初の發電補給設備として小野川、秋元湖間の水頭を利用せんとするものが小野川発電所である。

工事は飛鳥組の熱心なる努力によつて着々其の工を進めつゝあり、湖の彎入部を利用せる放水路側の角落し其の他の構造物は殆んどコンクリート工を了し、圧力管側は堅型 Francis turbin 2基に連接すべき draft tube 2本が基礎コンクリート中に埋め込まれ、之を圍む發電室の壁の配筋及び配電盤室の床等の型枠組立作業中であつた。

秋元湖畔にて晝食

午後零時半再び徒歩にて秋元堰堤に戻り、秋元湖畔に設けられた天幕中にて眼前に名眉なる風光に接しつ

つ香り 高き 松茸汁に 舌鼓を 打ちつ つ、 晝食を 攝る。 終つて 前日來の 東京電燈會社の 本會見學に 對して 計られた 便宜及び 御好意と 飛鳥組の 特別の 御好意に 對し 會長より 謝辭を 述べられ、 次いで 秋元堰堤を 背景に 記念 撮影を なした。

**裏磐梯五色沼探勝**

午後 1 時 50 分再び 車上の 人となり、 裏磐梯五色沼の 探勝に向ふ。 こゝにて 一行を A 班と B 班に分ち、 A 班は 自動車にて 檜原湖及長峯水門を 視察し 五色沼の一部を 視察して 磐梯ホテルに 小憩、 B 班は 徒歩にて 五色沼廻りを 爲し 磐梯ホテルにて A 班と 合流する 事とした。 一行は 一部の 老人方を 残し、 残んど B 班に加つた。 水の 深さによつて 沼水の 色が 違ふと云ふ 不思議な 沼である。 色は 濃い コバルト色、 赤がかゝつた色、 綠色等であるが、 附近の 景勝は 國立公園として 良好な 所である。 昆沙門沼（水の 色は コバルト色であるが 元は 赤色だつたので 赤沼とも 云ふ）、 辨天沼、 瑠璃沼、 深澤沼、 柳沼、 彌六沼等を 視察し 徒歩約 40 分で 磐梯

檜原、小野川、秋元、猪苗代4湖の水位差

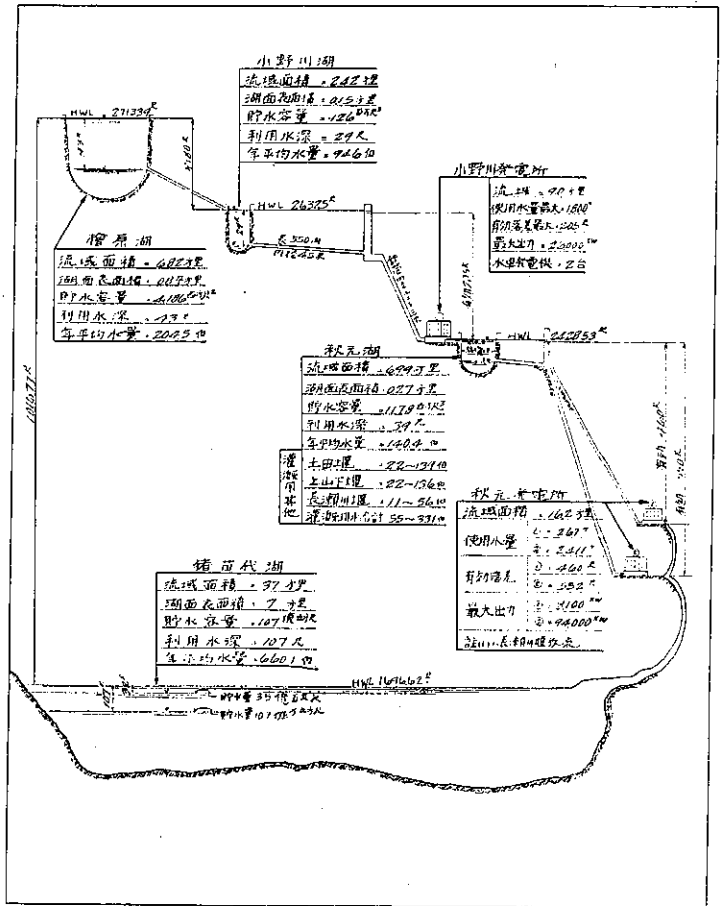


図-7. 工事中の小野川発電所



ホテルに着く、こゝで或は 戸外に 設けられた テントに 休憩し、 或は ホテルの 温泉に 浴して 裏磐梯の 景色の中

に再び 融け入つたので あつた。

**裏磐梯をドライブ歸路に着く**

磐梯ホテルにて 充分 休憩、 附近の 景勝を 探つた。 探れば 探るほど 奥深い 深景に 歸るを しのびなかつたので あつたが、 時間も 迫つたので 再び 車上の 人となり、 裏磐梯を ドライブ、 未だ 少し 早い 紅葉を 觀賞しながら、 午後 4 時 半 猪苗代 驛に 着し、 2 日間 に 互る 有意義だつた 視察旅行を 終つた。 驛で 飛鳥組 御好意の 土産物を 頂戴し、 一行は 4 時 55 分 の 上り 列車、 其の 地で 歸路に 着いた。

本稿を終るに際し、更めて、福島縣當局、東京電燈會社及飛鳥組の本視察旅行に與へられた特別の御好意に對し厚く謝意を表する次第である。

圖-8. 秋 元 湖

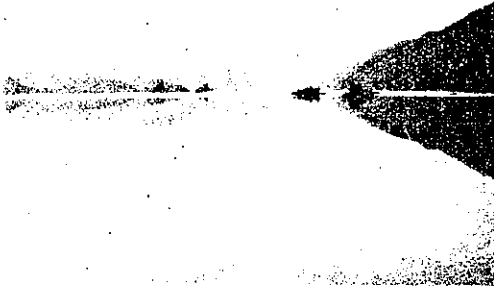


圖-9. 秋元湖畔の宴食



圖-10. 記 念 撮 影

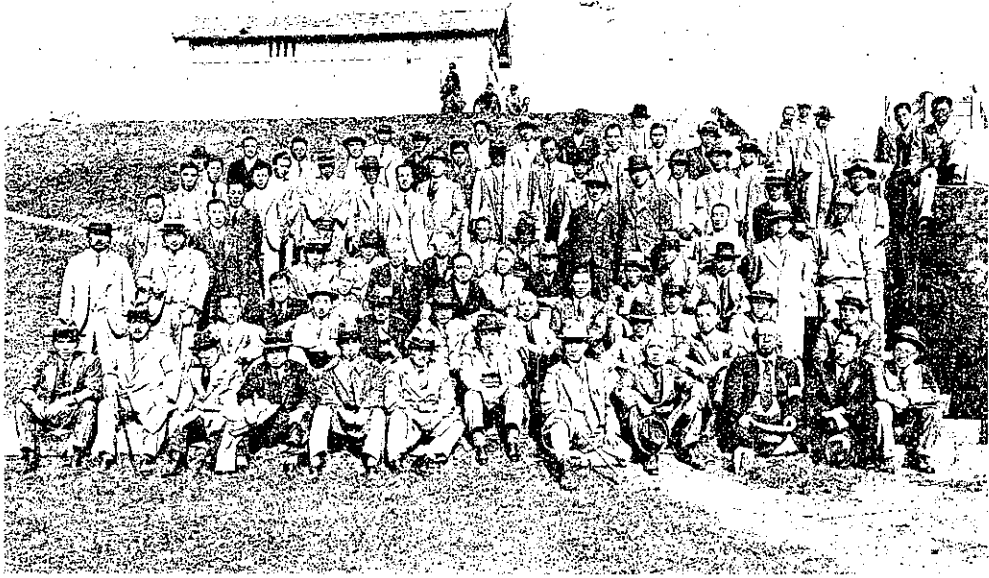


圖-11. 五 色 沼 の 探 勝



## 第 25 回秋季視察旅行參加者芳名 (アイウエオ順)

足立益三君  
 伊藤孝治君  
 宇野周三君  
 植草定太郎君  
 内田莊一君  
 遠藤藤吉君  
 大竹邦平君  
 岡崎保吉君  
 奥田秋夫君  
 龜田素君  
 河合清君  
 木村公道君  
 鬼海治三郎君  
 久寶保君  
 楠田九郎君  
 藏重哲三君  
 小室萬五郎君  
 近藤信興君

井上秀二君  
 伊藤長右衛門君  
 上野有芳君  
 内川龍雄君  
 江澤甚一君  
 大島滿一君  
 太田尾廣治君  
 荻野廣君  
 金澤義之介君  
 川口愛太郎君  
 河村莊君  
 木村秀敏君  
 菊田政吉君  
 草刈三郎君  
 熊川信之君  
 小林重一君  
 兒玉靜雄君  
 佐藤石藏君

齋藤諦君  
 澁谷彦吉君  
 下山武夫君  
 杉山貫一郎君  
 扇田彦一君  
 竹殿一郎君  
 當山道三君  
 中倉專一郎君  
 沼田等君  
 野村盛君  
 原田碧君  
 藤田博愛君  
 前園千代次君  
 三島卯四郎君  
 山口直樹君  
 結城朝恭君  
 米屋秀三君

鮫島茂君  
 下村尙義君  
 杉本芳一君  
 關重雄君  
 野田正人君  
 手塚啓造君  
 那波光雄君  
 中路誠三君  
 沼田政矩君  
 野瀬正人君  
 藤田周造君  
 細野芳彦君  
 水谷九介君  
 山本新次郎君  
 吉田直君  
 若崎秀雄君

# 會 告

## 會 員 名 簿 調 製 に 就 て

昭和11年度本會會員名簿を作成するに當りまして正確を期するため登録名簿と一応照合致したいと思ひまして、第22卷第9號會誌に葉書を添付9月30日までに本會に到達する様御回報を御願ひしてありますが未だ御出しにならない方は一刻も早く御願ひ致します。

從來住所職業その他が変更せられても一向御通知がないため舊來のまゝ名簿を作成し、實際と相違することが往々ありますのは誠に遺憾に存じます、何卒従前の通り何等変更せられない場合でも、必ず御回報下さる様特に御願ひ致します。

## 御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐入りますが、御本人に御注意下さるか、本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

### 會 員

荒川 參太郎君  
轟 増能君  
山本 保之助君

稻葉 彌吉君  
張 惟和君

木村 貫一郎君  
陳 發棟君

小林 源次君  
丸 林 筑郎君

### 准 員

和 泉 高 嚴君  
田 中 武 次君  
佐 藤 興 吉君  
栗 田 忠 治君  
萬 斯 選君  
船 橋 貞 一君  
中 野 順 太 郎君  
劉 作 檀君  
城 内 清 太君  
山 田 政 次 郎君  
多 田 安 三 郎君

池 田 乙 次 郎君  
坪 井 基君  
徐 三 善君  
小 林 義 雄君  
關 佳 夫君  
高 橋 理 三 郎君  
難 波 壽 一君  
濱 崎 禎 四 郎君  
水 原 馨 文君  
横 田 清 治君

池 田 角 太 郎君  
緒 方 政 雄君  
萩 原 官 六君  
田 所 要 吉君  
曾 我 進君  
本 橋 二 郎君  
吉 田 二 億君  
平 本 源 太 郎君  
宮 田 肇君  
石 原 三 郎君

柿 崎 長 久君  
大 森 鶴 吉君  
大 菊 池 三 吉君  
野 口 金 太君  
福 島 保君  
吉 見 胤 隆君  
袁 汝 誠君  
藤 村 禮 士君  
片 岡 幡君  
齋 藤 賢 策君

## 工 事 寫 眞 募 集

工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。登載の分には薄謝を呈します。

## 會 告

### 昭和 11 年 土木學會 鉄筋コンクリート標準示方書及同解説發行に就て

昭和 6 年土木學會鉄筋コンクリート標準示方書は今日既に 5 箇年を閲し、其の内容に關し改訂を要する點多きを認め目下本會コンクリート調査委員會に於て之が調査中なるも、差當り術語を工學會規定の用語に改め、骨材試験用の篩を日本標準規格に改めたる昭和 11 年版が出来ましたから御希望の向は本會宛御申込下さい。大きさは携帯に便なる様示方書は四六版、解説は菊版とし、定價は示方書及解説を合せて 1 円であります。

### 時 報 記 事 募 集

本誌に時報欄を新設して、下記内容の記事を掲載する事に致しましたから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- A. 土木工事の計畫、設計、施工の進捗、竣工の狀況、金額等のニュース
- B. 土木工学界の内外学協會、調査會、委員會等の設立、調査研究事項並に報告其他會議、催物の簡單なる紹介
- C. 官廳、會社、公共團體の組織、事業に關するニュース
- D. 法規、示方書、規定等の紹介

### 會 員 の 頁 記 事 募 集

今度會誌に「會員の頁」を新設する事と致しました。この欄は會員諸君の土木工学、土木工事、土木學會、土木技術社會に對する批判、時評、感想、希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

### 土 木 工 学 用 語 集 發 刊 延 期 に 就 て

曩に豫約申込を受けました本會發行の土木工学用語集の發送は印刷製本の都合で遅延致し、申譯ありませんが、11 月末日迄には送本出来る豫定でありますから御了承下さい。

## 會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下さり度し。

## 會費納付に付る注意

會 費	會員種別	會費年額	第1期分 (1月~6月)	第2期分 (7月~12月)
	會員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円
		新入會者は月割計算とする。		
納 期	第1期分 3月、第2期分 9月			
納付方法	集金郵便を差向けます(旅行等にて御不在の場合も掛込に支障なき様御配慮下さい)。 振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひせしめ、朝鮮・滿洲の一部等振替財金を取扱はざる地に居住せらるる會員は同期の翌月末迄有替その他の方法に依り御送金相成らし。 會費一時納付の御豫定の場合に依り御通知下さり度し。			
未納の場合	集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第2章第14條第1項に依り會誌の配布を停止せられます。			

## 會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 25 日に発行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。発行後數ヶ月経過しての照會は時に残部皆無となり配布不可能の場合があります。

### 會誌編輯委員

委員長	關 信 雄				
委員	伊 藤 健 雄	坂 倉 正 嗣	科 葉 通 彦	大 久 保 一 郎	
	岡 崎 三 吉	加 藤 伸 平	盛 部 保	嶋 野 貞 三	
	鈴 木 清 一	長 田 誠 三 郎	野 坂 孝 也	廣 瀬 孝 六 郎	



# 既刊會誌殘部内譯

(一部部有るものを示す)

部	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
5													1.00
6													1.00
7													1.50
8													2.00
9													2.00
10													2.00
11													2.00
12													2.00
13													2.00
14													2.00
15													1.00
16													1.00
17													1.00
18													1.00
19													1.00
20													1.00
21													1.00
22													1.00
第20巻第12號(創立20周年記念號)													1.50
第21巻第7號(會誌索引付)													1.30
履修調査報告書(1,2,3)													18.00
応用力学聯合大會講演集													1.00
鉄筋コンクリート構造学方書													1.00
同上(附註)第3編													1.00
土木工学論文初集													1.50
土木学会誌索引(第1巻第1號-第20巻第12號)													0.50

上記残部會誌御希望の場合は所定金額を振替口座東京 16828 番に納入用紙通信欄に七の旨記入請求せられたし。

## 廣 告 料

普通廣告	1回1頁	35円	1回半頁	20円
指定廣告	裏表紙3面對向及廣告初頁	1回1頁	40円	
	裏表紙3面	1回1頁	70円	
	色アート	1回1頁	60円	

- 指定廣告は凡て1箇年連続申込のものに限り取扱ふものとす。
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす。
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす。
- 廣告に寫真版又は木版等を挿入する場合は之に要する資費を別に申受くるものとす。

# DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

---

VOL. XXII, NO. 11, NOVEMBER 1936.

---

## CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society. ....	85
<b>Papers.</b>	
Analysis of Continuous Arch Systems. <i>By Kôzaburô Misé, Dr. Eng., Member.</i> .....	1045
Flow of Water on the Road Surface. <i>By Jyuitirô Kuno, Dr. Eng., Member.</i> .....	1083
On the Ventilation of Usami-Tunnel. <i>By Kyugo Isikawa, C. E., Member.</i> <i>By Hideo Kodake.</i> .....	1097
Discussions. ....	1105
Notes on Matters of Interest. ....	1111
Our Members Say. ....	1123
Current Notes. ....	1125
Abstracts of Selected Articles. ....	1129
Patent News. ....	1149
New Publications. ....	1151

---

### OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.